

# G3 のツイッター その 41

## 烈剛河内 竹井 保満

最近では、買い物はネットや、カード払いが多いので、福沢諭吉さんにはあまりお会いする機会が有りませんが、福沢さんは、「一身二生を生きる」との言葉を残しておられます。諭吉さんは長崎に留学、大阪の緒方洪庵の適塾に学び、英語をマスターされ欧米を見学し、江戸時代と明治時代の大変な二つの時代を生きてこられました。

経営の神様と言われた松下幸之助さんも、戦前の産業と戦後 GHQ によって会社の解体を迫られたり、社員の首を切るのは経営者ではないなど、難しい時代を乗り越えてこられ、二生を生きたとっておられました。

私達一般市民は、お二方の様に偉大ではありませんが、それぞれの変革の時代を精一杯生きてきました。一身三生か一身四生か分かりませんが、戦前、戦後そして IT の時代、そしてこれから向かおうとしている AI の時代です。自分で学習出来る AI には、チェスや囲碁将棋も AI に勝つことは出来なくなりました。

8 月の初めの新聞に、アメリカのソフトウェアの会社ですが、社員の手でマイクロチップを埋め込んだそうで、ドアを開けるのも、買い物をするのも、手をかざすだけで大変便利だとの記事が有りました。

私は、人智を越えた素晴らしい AI の時代を見たいと思っていましたが、AI のチップを強制的に体に埋め込まれ、すべてを管理されてはたまりません。ましてや、人類制覇の夢見る独裁者に支配されてはなおさらです。

トレーニングには厳しい夏も峠を越えメニューも増やしました。気候が良くなると各種競技大会が目白押しです。新聞広告で不老超寿と言う本を見つけました。アンチエイジングを超えたハイパーエイジングへの道とか、買って読もうと思っています。